

乳房炎牛への対処

日頃から、酪農家のみなさんは乳房炎が気にかかっていることでしょう。最も大切なことは乳房炎にならない対策を立てることです。しかし、乳房炎になってしまえば、それを早く治療し、できるだけ早く元の状態に戻すことが必要です。的確な治療がスムーズに行えるよう乳房炎への対処方法を確認しましょう。

1. 乳房炎治療対処の流れ

乳房炎の治療は、早期発見早期治療が大切です。原因となった細菌を発見し、最も効果的な治療薬を使用することが基本です(図1)。しかし、現場ではすべての乳房炎について原

因菌と使用する薬剤を調べることは困難です。このため、図2のような流れで対処する方法がよいでしょう。

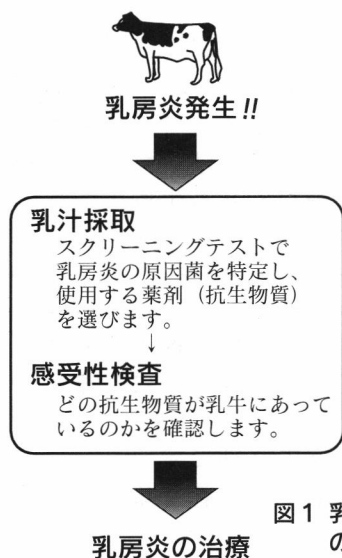


図1 乳房炎の治療の流れ

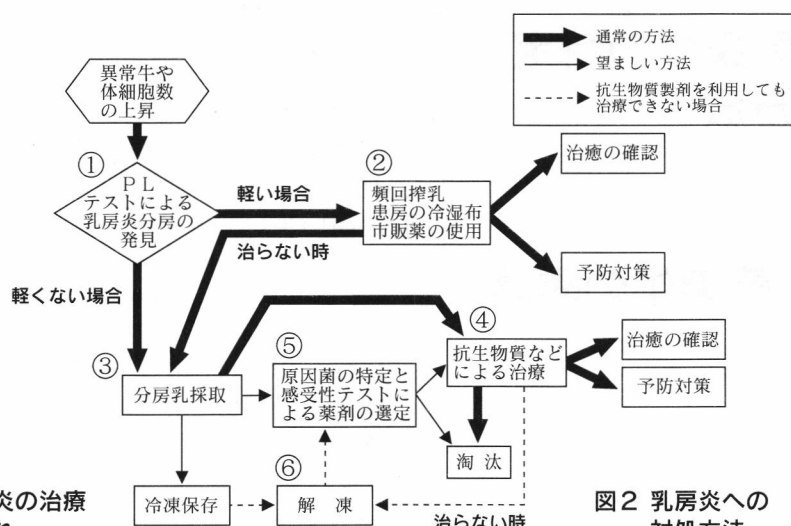


図2 乳房炎への対処方法

- 1 乳房炎の発生や、旬報や乳検成績で体細胞数の増加が見られた場合は、まずPLテストで乳房炎の分房を特定します(①)。
- 2 軽度と思われる場合は、頻回搾乳と患房の湿布を行います(②)。もし治らなければ③以降の作業をします。
- 3 乳房炎の乳汁を殺菌した採取管に取り(③)、すぐ使用しない場合は冷凍します。
- 4 治療を受けます(④)。このとき最も効果

的な方法は、採取した乳汁(③)をもとに、原因菌の特定と感受性テストにより効果的な治療薬を選ぶことです(⑤)。

- 5 ④で治療の効果が現れない場合は、一般に治療が長引きます。そこで採取した乳汁(③)を解凍して(⑥)、⑤の作業を行うと、短期間で効果の高い治療を行うことができます。
- 6 治療後は完治を確認するとともに、原因を突き止めて予防策を取ることが大切です。

2. 乳房炎の対処

乳房炎の治療は、臨床性乳房炎と潜在性乳房炎では対応方法が異なります。また、臨床性の乳房炎も3種類(甚急性、急性、慢性)に分けられます。一般的な乳房炎に対する処置は上記のとおりですが、自分の手に負えな

い時には、獣医師に連絡し治療方法を仰ぎます。しかし、ただ獣医師を待つのではなく、獣医師が来るまでに治療効果が上がると思われることやその後の処置の方法について予め頭に入れておき、早期治癒を目指しましょう。

(1) 臨床性乳房炎の対処

① 甚急性乳房炎

一刻も早い獣医師による診断が必要です。獣医師が到着するまでは、頻回搾乳を行って細菌の排泄を促すとともに、治療しやすい環境を作っておきます。治療後も1～2日は頻回搾乳を行い、細菌の排泄を促します。頻回搾乳の目安は1日4回搾ることですが、2～3時間おきに搾るのが理想です。

② 急性乳房炎

滅菌試験管などに乳房炎乳をとって検査に出し、感受性検査を受けましょう。乳頭は清潔に保ち、乳房が熱い場合には冷やし、乳房に熱感がなくかたい場合には温めます。頻回搾乳も効果があります。この時、乳房炎にかかっていない乳房も一緒に搾ります。また、硬くなった乳房の搾乳を行うには、オキシトシン製剤を注射してから搾乳します。

③ 慢性乳房炎

泌乳期よりも乾乳期治療が効果的です。乳房炎にかかっている分房の生乳は廃棄します。

(2) 潜在性乳房炎の対処

潜在性の乳房炎は泌乳中の治療が非常にしづらいため、予防と乾乳期の治療が中心になります。予防にあたっては環境の整備とミルクカーが正常に機能するよう保守管理し、過搾

※※ 乳房炎の症状 ※※

(1) 甚急性乳房炎
分娩後1週間以内の牛や高泌乳牛がかかりやすく、全身症状を伴います。大腸菌類が原因であることが多く、高熱や食欲の減退が起こります。乳汁はチョコレート色か乳清状となり、起立不能になることも多く、一刻も早い獣医師の診察が必要です。

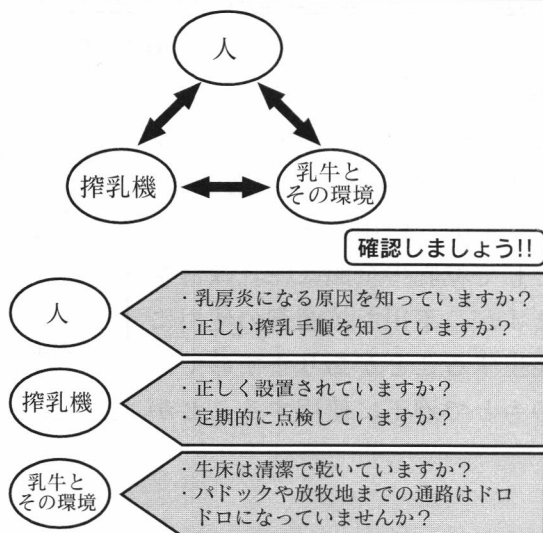
(2) 急性乳房炎
分娩の前後や乳頭を損傷した後に発生しやすく、大腸菌、ブドウ球菌、連鎖球菌などが原因となることが多いようです。体温が高い、餌を食べない、乳房の腫れが著しいなどの症状が見られます。

(3) 慢性乳房炎
多くの場合、臨床性乳房炎が治癒せず起こるものです。食欲減退がないにも関わらず、分房の腫れが見られたり、乳汁中にブツが出ることもあります。

乳に気をつけます。また、正しい搾乳手順で搾乳をしているか確認します。乾乳期治療にあたっては、問題牛群に対し乾乳前に全頭の全分房の治療を行い、その後乾乳軟膏を注入します。

乳房炎の予防

乳房炎を制圧するためには、やはり予防（乳房炎コントロール）が肝心です。そのためには、乳房炎トライアングルという概念を頭に入れておきましょう。この中で、一番影響するのは、人の考え方です。「絶対に乳房炎をなくそう」という強い意志を持ち、農場オーナーだけでなく、搾乳に従事するすべての人（家族、ヘルパー、実習生など）が同じ決意で同じ仕事をすることが肝心です。



**結局は、
人の考え方が一番影響
します**

図2 乳房炎トライアングル